

● 診療科の特色

1. 受診すべき科がわからないときに内科初診外来として専門科へつないでいます。
2. プライマリ・ケア領域の急性疾患については当科で診断治療させていただいています。
3. 科を越えて横断的な対応が必要な患者さんや診断がつかないまま症状が窮迫している患者さんの入院主科として治療や療養にあたっています。
4. 感染症科と協力し適正な感染症治療の実現を目指しています。
5. 研修医の診療の基礎を築く手助けになるよう指導をこころがけています。

● 入院診療実績

1. 主要入院患者数 新入院患者数 440 名(転科患者を除く)

	疾患	患者数
1	誤嚥性肺炎	74
2	COVID-19	30
3	腎盂腎炎	27
4	敗血症	25
5	肺炎・気管支炎	19
6	菌血症	16
6	尿路感染症	16
8	うっ血性心不全	14
9	蜂窩織炎	9
10	アナフィラキシー	8

当科の入院患者は高齢者が大半で、誤嚥性肺炎を含めた感染症が主病となっています。嚥下評価で経口摂取困難と判断され、今後の栄養についてケースワークを行い、胃瘻造設に至る症例もしばしばみられました。また、独居老人が救急搬送され帰宅困難でそのまま入院するケースが増えてきている印象です。上記の表には出ていませんが、リウマチ性多発筋痛症や偽痛風もよくみられる疾患でした。

若年層の入院は日常生活に支障のある症状を呈しながら診断がついていない、不明熱のような症例が多く、最終的な診断はさまざまに確定診断に至らないことも珍しくありません。その中にリケッチア感染症や重症熱性血小板減少症候群がみられることは、当院の立地の特色ではないかと感じています。

● 研究業績

学会

- 1) 大塚 崇史

鍼治療によって多発深頸部膿瘍を呈したと考えられた 1 例
第 124 回日本内科学会中国地方会

2021 年 6 月 20 日

- 2) 山口 麦子

タンポンの使用に起因した Toxic shock syndrome の 1 例
第 124 回日本内科学会中国地方会

2021 年 6 月 20 日

- 3) 安藤 翼
ノカルジア属による大腿菌膿瘍の1例
第124回日本内科学会中国地方会 2021年6月20日
- 4) 近間 俊介
COVID-19肺炎後の肺線維症に対してステロイド投与を行った2症例
第124回日本内科学会中国地方会 2021年6月20日
- 5) 井上 義隆
後腹膜線維症との鑑別を要した濾胞性リンパ腫の1例
第125回日本内科学会中国地方会 2021年11月6日
- 6) 長江 桃夏
プレドニゾロンの中絶によって発症したアビラテロンによる薬剤性副腎不全の1例
第125回日本内科学会中国地方会 2021年11月6日
- 7) 山本亜佑美
当初、髄液グラム染色と抗原検査から肺炎球菌性髄膜炎を疑ったリステリア髄膜炎の1例
第125回日本内科学会中国地方会 2021年11月6日
- 8) 青木 亮弥
核酸増幅法による繰り返す陰性判定で診断に苦慮したCOVID-19の1例
第125回日本内科学会中国地方会 2021年11月6日